

令和7年度

運営に関する計画
(最終評価)

大阪市立本田小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は今年度創立150周年を迎える歴史ある学校である。保護者や地域も学校の教育活動に対して協力的で、創立150周年を共に祝おうとする気持ちが高まっている。

児童は素直で、概ね良好な人間関係を築けている。これまで全校児童に「自分を大切に、周りの友達も大切に」ということを意識づけ、人間関係調整力を学年に応じて指導してきた。異学年の関わりも大切にしており、高学年児童が低学年児童にやさしく寄り添う姿も多く見られる。

学校のきまりについては、互いに安全に安心して生活していくために必要なものであることを理解し、きまりを守って生活しようと思う児童が大半を占めている。安全に生活するためには、環境整備はもちろん児童一人ひとりが安全に生活を送るために課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育てることが重要である。

学習においては、この数年、知識や技能を育成する学習から、資質・能力を育成する学習へと変換を図ってきた。学習の個性化を支える授業づくりを校内の研究テーマに据え、探究的な学びや、教科を横断する学びを各教科で展開している。

体力・運動能力に関しては、運動をすることの楽しさを感じている児童は多いものの、全市的に見て、体力・運動能力は低い傾向が見られる。運動をする機会の確保と、運動を楽しんでいる子どもが増える体育科の授業づくりが必要である。

健康的な生活をするために必要な「朝食をとる」「同じ時刻に寝る・起きる」については、保健教育、食育、家庭への啓蒙の3つの側面からアプローチを続けていくとともに、手洗いの徹底を呼びかけ、感染症等の予防にも努めている。

近年のグローバル化した社会での保護者の勤労状況は多様化し、それぞれの家庭の経済格差や教育力の格差、文化親和度の格差の広がりを生み出している。また、グローバルイズムは、さまざまな国から転校してくる児童の増加という現象を生み出し、日本語教育のニーズも高まっている。公教育の基礎になる小学校であるからこそ、教職員はこれらの格差を乗り越え、等しく教育を受ける機会が与えられ、社会に積極的に参加するチャンスを一人一人の児童に提供しようという決意をもって、学校教育に携わっている。

このような子どもの実態や社会情勢、大阪市教育振興基本計画の3つの最重要目標を踏まえ、「健康でなかよくする子、よく学ぶ子」を学校教育目標に設定している。また、学校教育目標達成のため、「子ども・教職員・保護者・地域 みんなで学校をつくる本田小学校」をめざす学校像とし、めざす子ども像、めざす教職員像を、「自分と周りの人を大切にし、本田小学校のみんなが幸せな学校生活を送れるように自ら目標を設定し、責任をもって行動できる子ども」「子どもの成長を願い、将来、社会の一員として自分なりの道を切り拓けるために学び続け、協働して学校運営に参画できる教職員」と設定している。

さて、本校教育の課題は大きく2つである。一つは自分と周りの人を大切にし、自他の命を守る力の育成。もう一つは常に変化し不確実で曖昧な時代に、柔軟に対応できる児童の育成である。前者については、多様性を尊重し、児童一人ひとりが安全に生活を送るために課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育てていきたい。後者については、すべての学習の基盤となる資質・能力を育成するための授業実践や教員の研鑽に努めるとともに、芸術・スポーツ・文化・伝統など本物に触れて学ぶ機会を設定し、児童の身体的文化資本を育てていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ★ 令和7年度の小学校学力経年調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合 95%以上を維持する。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。
- ★ 令和7年度の小学校学力経年調査において「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。(低学年は校内調査を活用)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ★ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、対全国比が1を上回っている学年は維持し、下回っている学年は前年度より0.01ポイント向上させる。
- ★ 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 令和7年度末の校内調査の「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ★ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ★ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。
- ★ 令和7年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ★ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 年度末校内調査「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について肯定的に答える児童の割合80%以上を継続させる。
- ★ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 年度末校内調査「友だち一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合90%以上を継続させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ★ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ★ 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 令和7年度末の校内調査の「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合90%以上を維持する。

【学びを支える教育環境の充実】

- ★ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ★ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。
- ★ 年度末の校内調査の「読書記録の目標（冊数）を意識しながら読み、昨年度より本を読む量は増えましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】において、年度目標の4項目すべてで目標を達成することができた。特に「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対しては、肯定的な回答をする児童の割合は、98%と非常に高く、教職員と子どもたちが同じ方向を進んできた成果が見られた。校内のいじめアンケートにおいても「いじめられたことがある」と答える児童の割合は、どの学期も前年度比で1%程度減少しており、年3回の「いじめ・いのちについて考える日」を中心に各学年・学級で、粘り強く訴えることにより児童の意識が高まった結果であるといえる。また、「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合は、91%であった。教職員が児童のがんばりや得意なこと、興味のあることなどを見逃さず、励まし続けたり、児童相互の関りや異学年での交流に力を入れ大切に取組んだりしたことで、お互いの良さに気づき、自己肯定感を上げることにつながったと考える。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】において、年度目標4項目中3項目で目標を達成することができた。しかし、小学校学力経年調査における国語および算数の平均回答率においては、目標を達成することができなかった学年もある。取り組み内容にもある通り、研究授業をはじめ、さまざまな研修会を計画的に取り組んだことで、教員一人ひとりの意識が高まった。自分の考えを可視化したり相手に伝えたりする活動を日々の授業で取り入れる教員も増え、指導力向上につながっている。小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に答える児童の割合は45%で、年度目標を大きく上回り、教員の授業改善の結果であるといえる。また、体力測定の結果からは、基礎体力の低下が懸念される。しかし、校内アンケート「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な回答は92%と目標を大きく上回っている。次年度以降は、学校全体で体力・運動能力向上に取り組む必要を感じている。

【学びを支える教育環境の充実】において、年度目標3項目中2項目で目標を達成することができた。「授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする」の項目においては、目標を達成することができなかった。一人一台端末の活用については、3年生から6年生で、タイピングの練習を週1回程度取組んだり、教科の学習で週3回程度活用したりと活用は進んでいる。これからは活用率に目を向けるのではなく、どのように使うかを大切に活用していきたい。読書についても継続的な取り組みを行った。児童は、「よみきかせの会」や「お話の会」が大好きで、図書室への来室も多い。生涯にわたって読書に親しむ児童が増えるよう、本の魅力をボランティアの方々と協力して児童へ伝えるとともに、読書に親しむ時間や環境の整備にも努めていきたい。

大阪市立本田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>★ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。(低学年は校内調査を活用)</p> <p>★ 年度末校内調査「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合80%以上を継続させる。</p> <p>★ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。(低学年は校内調査を活用)</p> <p>★ 年度末校内調査「友だち一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合90%以上を継続させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1、安全・安心な教育の推進】</p> <p>児童一人ひとりが安全に生活を送るために課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育成する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートで「いじめられたことがある」と回答する児童の割合を前年度比で減少させる。 ・校内調査「安全に気をつけて生活することができている」の項目について、肯定的に答える児童の割合80%以上を継続させる。 ・校内調査「ろうかや教室を走らずに生活できている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする ・校舎内(運動場、講堂を除く、登下校時のけがは含む)のけがで保健室に来室する児童1人あたりの回数を前年度比で減少させる。 ・各種避難訓練の事前指導、ふりかえりを各学級で徹底することで児童が課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育成する機会をもつ。 	B
<p>取組内容②【2、豊かな心の育成】</p> <p>命を大切にし、仲間を尊重する心と態度を育てる教育活動を実践する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査「異学年交流の中でみんなの気持ちを考えて動いた」の項目について、 	A

<p>肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査「困っている友だちがいたら助けることができる」の項目について、肯定的に答える児童の割合90%以上を継続させる。 ・児童会が主体となり、創立150周年を祝う活動を企画し、取り組む。 	
---	--

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（自由記述欄）

<p>年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4項目ともすべて目標を達成することができた。 															
<p>取組内容①【1、安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートで「いじめられたことがある」と答える児童の割合は、どの学期も前年度比で1%程度減少している。年3回のいじめについて考える日や各学年・学級での取り組みの成果だといえる。 ・児童アンケート「ろうかや教室を走らずに生活できている」の結果は、75%にとどまり、目標の数値には届かなかった。継続的な声かけを行ってきたが、学年や学級での差がみられる。 ・校舎内のけがで保健室に来室した一人当たり回数は、昨年度より0.1回ほど増えた。前期同様、教室でのけがが変わらず最も多い。保健室から、けがの予防についての保健指導や安全マップの作成、健康がんばり週間の実施など、児童への意識づけを行う取り組みは継続して行った。 															
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">◆けがの発生場所の内訳 全体 833件</td> </tr> <tr> <td>・教室</td> <td>538件 (64%)</td> </tr> <tr> <td>・廊下</td> <td>130件 (15%)</td> </tr> <tr> <td>・階段</td> <td>58件 (6%)</td> </tr> <tr> <td>・通学路</td> <td>65件 (7%)</td> </tr> <tr> <td>・特別教室</td> <td>21件 (2%)</td> </tr> <tr> <td>・その他</td> <td>21件 (2%)</td> </tr> </table>	◆けがの発生場所の内訳 全体 833件		・教室	538件 (64%)	・廊下	130件 (15%)	・階段	58件 (6%)	・通学路	65件 (7%)	・特別教室	21件 (2%)	・その他	21件 (2%)
◆けがの発生場所の内訳 全体 833件															
・教室	538件 (64%)														
・廊下	130件 (15%)														
・階段	58件 (6%)														
・通学路	65件 (7%)														
・特別教室	21件 (2%)														
・その他	21件 (2%)														
<p>取組内容②【2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかよし集会や本田アミーゴなど、異学年での交流の時間を定期的にもった結果、児童アンケートの「異学年交流の中でみんなの気持ちを考えて動いた」の項目について、肯定的に答える児童の割合が93%、「困っている友だちがいたら助けることができる」の項目についても、肯定的に答える児童の割合が99%となり、目標を大幅に上回った。また、児童会中心に150周年に向けた取り組みを行うことができ、大きな成果を得ることができた。 															

次年度への改善点

<p>年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も継続的に取り組みを進めていく。 ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目については、肯定的な回答の割合を目標しているが、最も肯定的な回答を目標に設定するかどうか検討をする。
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が安全・安心して学校生活を送ることができるよう、継続して児童の心や意識を育てていく。 ・「ろうかや教室を走らずに生活する」の項目については、目標に達することができなかった。今後も教職員が同じ方向性をもって粘り強いポジティブな声かけをしていく必要が

ある。また、大人が声かけをするだけでなく、児童会が中心となって取り組みを行うなど別の手立ても必要である。

- ・「安全に気をつけて生活する」項目については、安全に気をつけて生活するとはどう過ごすことか、児童が具体的にイメージできていない。児童にとってわかりやすいようにアンケート項目をより具体的するよう検討していく。

取組内容②

- ・継続して取り組みを進めていく。

大阪市立本田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>★ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。（低学年は校内調査を活用）</p> <p>★ 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。</p> <p>★ 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。（低学年は校内調査を活用）</p> <p>★ 令和7年度末の校内調査の「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合90%以上を維持する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童が主体的・対話的で深い学びに取り組めるように、全教員が指導力向上に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の研究授業・研修会を年間30回以上行う。 ・自分の考えを可視化したり相手に伝えたりする活動を取り入れる。 ・考えが広がったり深まったりする学びについて、年1回研修会を行う。研修会后、そこで学んだことを子どもに話す時間を設定する。 	A
<p>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>外国語（英語）の勉強が好きな児童を育てるための英語活動を充実させる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本田タイム等を活用して、外国語（英語）の活動を週20分以上実施する。 	B
<p>取組内容③【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>150周年を祝うための体験的な校外活動、地域や専門の人材を招いた学習活動などに、学校全体・各学年で取り組む。</p>	A

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・150周年を祝うための体験的な活動や地域や専門の人材を招いた学習活動などに、各学年で年3回以上取り組む。 	
<p>取組内容④【5、健やかな体の育成】</p> <p>児童が運動（体を動かす遊びを含む）する機会を設定するとともに、体育の授業を充実させる。また、健康的な生活を送るため、目標を設定し、取り組める児童を育成する。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動として、児童が中心となり、わくわくスポーツタイムを企画するなど、児童に運動の楽しさを味わわせる活動をする。このような体育的な活動を年3回以上実施する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（自由記述欄）</p>	
<p>年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4項目中3項目において、目標を達成している。しかし、経年調査の国語・算数の平均回答率においては、目標を達成することができない学年もあった。 <p>取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業をはじめ、さまざまな研修会を計画的に取り組んだことで、教員一人ひとりの意識が高まった。自分の考えを可視化したり相手に伝えたりする活動を日々の授業で取り入れている教員も増え、指導力向上につながっている。 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は45%で年度目標を上回る結果となった。同項目の校内アンケートでも、6月の結果より2ポイント向上しており、教員の授業改善の結果だといえる。 <p>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本田タイムなどを活用して、外国語の活動を週20分以上実施する」に関して教員アンケートを実施したところ、肯定的な回答が92%であった。 <p>取組内容③【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学年でも体験的な校外活動、地域や専門の人材を招いた学習活動に、3回以上取り組むことができた。特に、創立150周年の記念行事関連では、さまざまな分野の専門家を招聘し、本物に触れる機会を多く設けた。その結果、児童アンケート「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」において肯定的な回答が97%となり、目標を大きく上回った。 <p>取組内容④【5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「運動やスポーツをすることは好きですか」において最も肯定的な回答が92%で、6月の同アンケートより2ポイント上回った。年度目標も大きく上回ってお 	

り、日々の体育実践に加え、わくわくスポーツタイムやインストラクターの活用の効果が表れているといえる。

次年度への改善点

取組内容①

- ・ 取組みとしてはこのまま継続していく。教員の意識向上のため、指標に「アンケート項目『日々の授業で、自分の考えを可視化したり相手に伝えたりする活動を取り入れていますか。』において、最も肯定的な回答を 70%以上（今年度最終 67%）にする」という項目を追加することを検討する。

取組内容②

- ・ 全市的な取組みのため、実施状況を 100%にする必要があると考える。来年度は取組み時間を増やすため、学年ごとに朝の外国語の時間を設定することを検討する。

取組内容③・④

- ・ 継続して取組みを進める。

大阪市立本田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>★ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>★ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。</p> <p>★ 年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6、教育DXの推進】</p> <p>日常の学習の中で個別最適な学びや協働的な学びの実現に向け、1人1台端末を活用する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を文房具の一つとして活用できるようにするために、3～6年生でタイピングの練習を週に1回程度取り組む。 ・3～6年生は、教科の学習で週3回程度活用する。 ・情報リテラシー教育を計画的に学期に1時間ずつ実施する。 ・会議や研修において、学期に1回以上ロイロノートの活用をし校務のDX化を図る。 ・全学年、心の天気を毎日活用する。 	B
<p>取組内容②【8、生涯学習の支援】</p> <p>児童が本に触れる機会を保障するとともに、児童が読書に興味をもち、読書活動への意欲向上につながる取り組みを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、週に一度の図書時間を確保する。（時間の確保） ・学校司書や図書ボランティアと連携を図り、低学年に読み聞かせを、週に一度以上行うようにする。（自分の知らない世界との出会い） ・中央図書館との連携を図り、学習单元に関わる図書の貸出依頼を、全学年、年に一度以上行うようにする。（目的のある読書） ・休み時間の図書開放を週に1回実施する。（機会の確保） ・読書記録を作り、子どもの読書の実態を把握している。（実態の把握） ・学級書庫の本を年に2回入れ替える。 	B

- ・めざす子ども像に近づけるために、読書に関して自ら目標を設定し、目標に向かって遂行する機会を設ける。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（自由記述欄）

年度目標

- ・3項目中2項目については、目標を達成している。しかし、「授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。」の項目においては11.6%と目標に達しなかった。

取組内容①【6、教育DXの推進】

- ・3～6年生では、タイピングの練習を週に1回程度取り組むことができた。
- ・教職員アンケート「教科の学習で週3回程度活用する。」において肯定的な回答が82%であった。また、児童アンケートでも95%の児童が「毎日・ほぼ毎日活用する」に回答しており、一人一台端末の活用は進んでいるといえる。
- ・年間計画に沿って、情報リテラシー教育を計画的に学期に1時間ずつ実施することができた。
- ・「会議や研修において、学期に1回以上ロイロノートの活用をし、校務のDX化を図る」については研究討議会において毎回使用し、公務のDX化を図ることができた。
- ・「全学年、心の天気を毎日活用する。」については、実施状況をみると、学年差が大きい。学級の実態もあるが、再度徹底が必要である。ただし、児童アンケートでは、1学期に比べ、肯定的な回答をした児童も増加し、していないと回答した児童も減少していることから、意識的には習慣化してきていると感じている児童は増えており、指導の効果は見られる。

取組内容②【8、生涯学習の支援】

- ・どの学年も週に一度の図書の時間を確保することができている。また、「学校司書や図書ボランティアと連携を図り、低学年に読み聞かせを、週に一度以上行うようにする。」に関する教職員アンケートでも88%が肯定的な回答をしており、読書活動への意欲向上につながる取り組みを行うことができた。
- ・中央図書館との連携、休み時間の図書開放の実施、読書週間の実施、読書記録（読書目標の設定）、年2回の学級文庫の入れ替え、などさまざまな取り組みを行った。その結果、児童アンケートの「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は82%となり、年度目標を上回った。

次年度への改善点

取組内容①

- ・心の天気以外のそれぞれの指標は達成できているが、数値が大幅に届いていないため、心の天気の徹底が必要である。また、児童に心の天気を入力させるだけでなく、教員が定期的に確認する習慣が必要である。児童アンケートでは、端末利用について「学校で一人一台端末をどれくらい使っていますか？」となっており、授業での実施状況は見ることができないため、「授業で一人一台端末をどれくらい使っていますか？」に変更することを検討する。

取組内容②

- ・嫌いな子が楽しく本に触れられるような取り組みとともに、好きな子をこのまま好きな状態で保つことも大切であるため、今年度と同様の取り組みを進めていきたい。